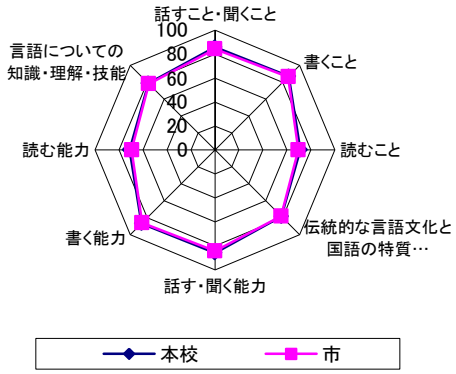
宇都宮市立陽東中学校 第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	85.7	84.3	81.2
	書くこと	86.9	86.4	74.0
	読むこと	71.1	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.2	77.9	70.6
観点別	話す・聞く能力	85.7	84.3	81.2
	書く能力	86.6	86.0	74.2
	読む能力	71.1	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	78.5	78.1	70.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（国語では本市独自の設問が含まれるため，参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好なもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市と比べ、1.4ポイント上回っている。設問別では話し方の工夫を聞き取る問題で、市の平均より2.5ポイント上回っている。平均値も85.7ポイントと、定着度は高いといえる。 ●この領域の状況は良好なので、大きな課題はないが、これまでのように話し合い活動や、聞き取りテストなどを取り入れた授業を行うことが大切である。	・この領域の状況は良好である。したがって、この数値が下がってしまわないように、今後も引き続き指導を続けることが重要である。ただ、ペーパーのテストでは計れない、話し合いの際の発言の仕方などに対し、授業の中で指導していかなければならない点があると思われる。今後は自分の考えを分かりやすく相手に伝える発表の仕方について学習させたい。
書くこと	○市と比べ、0.5ポイント上回っている。また、全体は86.9ポイントと、高い数値が結果に出ている。設問別には指定された文字数や、自分の立場を明確に書くこと、文章に沿ったまとめ方において9割を超える正答率となった。 ●自分のとった立場の理由が69.6ポイントで、よく書けなかったので、理由を明確に書く指導が必要である。	・書くことについての状況は86.9ポイントと高い数値を示しているが、市の結果も高いので、基本的な書くことの力は身に付いていると考えられる。今後は、更に複雑な文章にも対応できる応用力を身に付けさせる指導をしていきたい。例えば、課題に挙げたように自分のとった立場の理由を明確に書けるようにするなど、より説得力のある文章を書くことができる力を、身に付けさせたい。
読むこと	○市と比べ、1.6ポイント上回っている。設問別では登場人物の様子からその心情を推測する問題において、市より5.7ポイント上回った。 ●他の領域と比べ、ここでは71.1ポイントと低かった。設問別でも、市の平均正答率を下回った設問が3つあった。特に表現の特徴を捉える問題での正答率は市と比べ、2.7ポイント低かった。	・今後の指導の重点として、表現の特徴をとらえられる読解力を身に付けさせたい。また、説明文問題の正答率が74.7ポイントに対して、文学作品問題の正答率が66.6ポイントと、かなり低いので、文学作品における読むことの指導を強化する必要がある。例えば、実際の文章から工夫された描写を探し、どのような特徴があるかを話し合わせたり、どういう意図でこのような表現にしたのかを考えさせたりするなど、読みを深める指導をしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○全体の正答率は78.2ポイントで、市と比べ、0.3ポイント上回っている。特に文法、語句に関する知識の問題においては市より1.6ポイント上回っている。 ●反対に古典の内容を読み取る問題では、3問とも市の正答率を下回ってしまった。内容を捉える問題に至っては46.4ポイントと、5割を下回った。	・課題にもあったように、古典の内容読解問題に対して苦手意識がある。まずは歴史的仮名遣いの知識を再確認し、問題文自体が読めないということのないように指導をしていく必要がある。また、漢字の読み書きにおいても市の平均に対して、ポイントが下回った設問が8問中4問あった。漢字の読み書きは基礎学力なので、普段の授業から新出漢字の確認をし、家庭学習でも漢字の練習をさせるなど、定着に向けた取組をしていきたい。